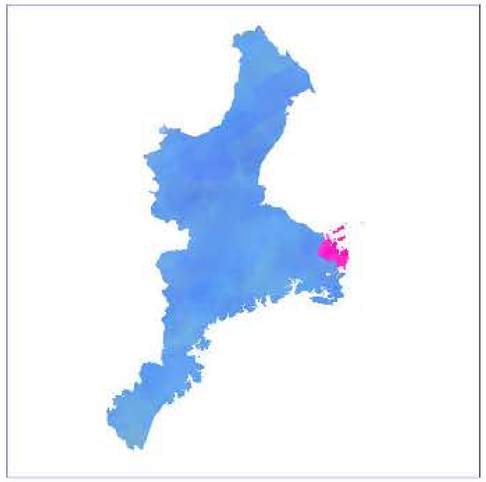
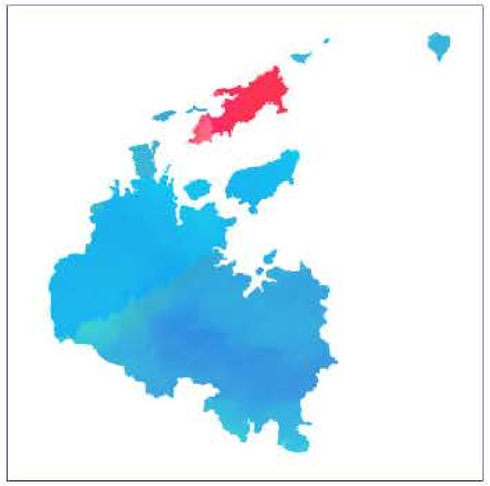
海想

かいそう

海を想い、郷を想う劇場



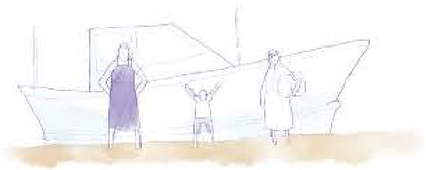


世古（路地）

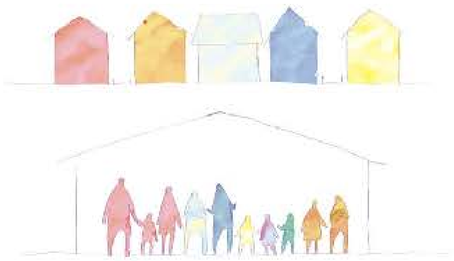
八幡神社

しんじの舞台

三重県鳥羽市答志町。
鳥羽市内佐田浜ターミナルより定期船で30分ほどの町。
夫婦船や寝屋子制度など独特の風習が残る。

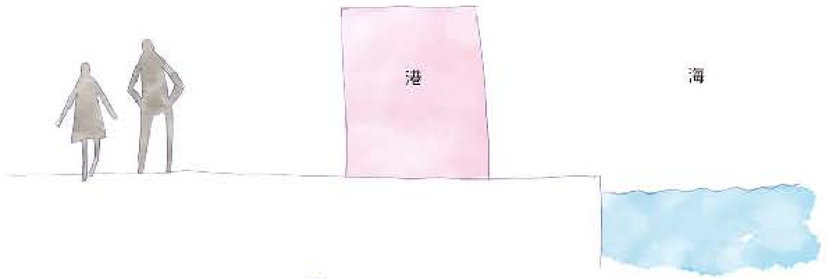


豊かな漁場に恵まれた答志島では
漁師や海女、海産物加工などの漁業従事者が80%を占め、
その他にも観光業や公務員など間接的に住民全てが
漁業生産の影響を受け生活している。

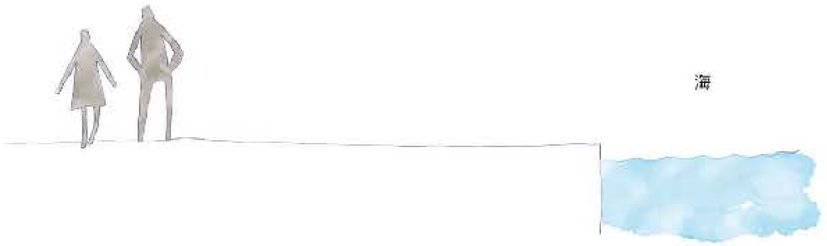


家々が世古と呼ばれる細長い路地を介して密集しており、
町中に世古が巡っている。中でも、さざえの貝のように
入り組んだ世古はサンデ（さざえ）の底と呼ばれている。
生活の距離が近いため、町全体が一つの家族のような
付き合いがなされている。

《現在》



答志の人々が見ている海は
港や船を介したもの
↓
幼いころより共に過ごしてきた親しみ深い
「生活の場」「仕事場」としての海であり
海に対する畏敬の念や感動を
覚えることは少ない。



港や船などの生活に根付くものではなく
新たな媒介を介して、もしくは媒介なしに
海と向き合うことで、本来の
海の姿を再認識、意識化しやすくする

海の恵みによりもたらされた答志の文化伝統

獅子舞
毎年正月の神祭の際に獅子舞が奉納される。
答志の獅子舞は一升瓶やラッパなど
様々なものを一口に飲み込む。

まるはち
家の戸、船などに書かれた
厄除けの印。正月に行われる
弓引神事では島の男たちがこれを
書くための神聖な墨を奪い合う。

寝屋子制度
中学を卒業した男子数名を
寝屋親が預かり世話をする制度。
寝屋子たちは生涯義兄弟の絆を結ぶ。

天王祭
9月14日に行われるヒタ。
町中に巨大な笹飾りが立つ。
笹飾りには短冊や色とりどりの
飾りが付けられる。

高台より眺める答志の町と海

〈媒介〉

○芸能・芸術

三重県は芸能の土壌が豊かな地である。

・・伊勢神宮の隆盛に伴って生まれた伊勢踊りや神渠志摩漁村集落には古くから残る舞台、伝統芸能、伝統的な祭り…など

県主体の芸術活動は北部では豊かであるが、南部ではまだまだ豊かであると言えない。よって県内南部で活動するアーティストの発表の場が少なく、また南部に住む人々が芸術に触れる機会も少ない。

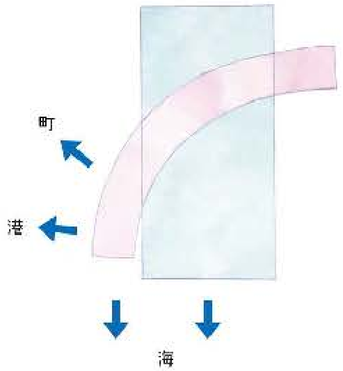
○AIR （Airtist in Residence）

Airtist in Residence とは、国内外の芸術家をひとつの地域に一定期間滞在させ、創作活動を行う取り組み。

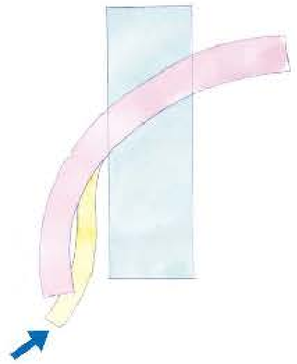
答志島に AIR の拠点となる展示施設、制作のためのアトリエ、スタジオ、宿泊施設を含めた劇場を設計し、アーティストの発表の場を提供する。県内の芸術活動の活性化を目標とし、 さらには鳥羽の観光資源の一助となることを目指す。

〈ダイアグラム〉

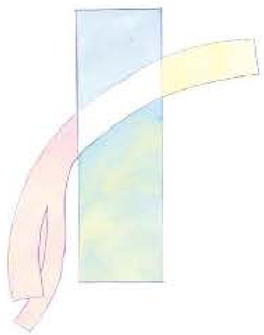
1. 短辺を海側に向ける



2. 町、港に向かう曲線チューブを挿入する



3. 誘導する



4. チューブで分割された部分ごとに機能を持つ

搬入口。
トラックで舞台外部に直付する

Y'

X'

風除室

+80mm

ギャラリー5

ギャラリー4

答志の産物や
アーティストの作品、
グッズの販売を行う

舞台背面が開閉できる
海と遠く見える島々を借景して
公演が行える

ショップ

W.C.

ホワイエ

W.C.

+4800mm

スタジオ3

スタジオ1

スタジオ2

スタジオ4

倉庫

W.C.

安置室

更衣室

ホール

+2000mm

ストーリー1

ギャラリー1

ギャラリー2

ギャラリー3

+1200mm

風除室

+4800mm

ストーリー2

ストーリー3

X

Y

ギャラリー構成のストーリー

1.
外界から切り離された開口の無い空間。
芸術作品が展示された細長いスロープをのぼっていく

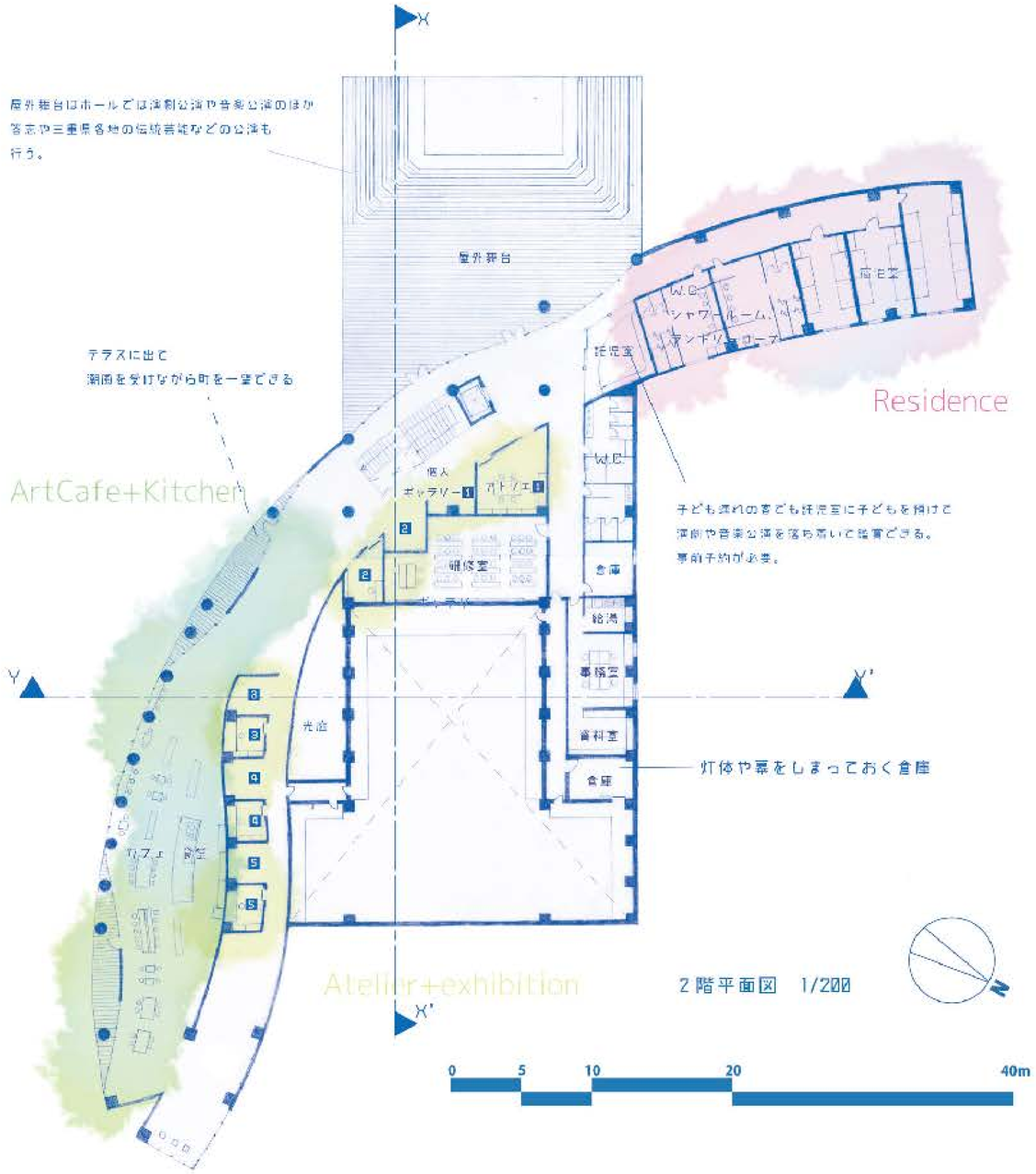
2.
外からの光が感じられる
答志島を覆う空の青さを久しく感じる

3.
閉鎖的空間を通過して
一気に視界が開ける。
答志の海の本来の姿を一望できる

N

1階平面図　1/200

0　5　10　20　40m



3. アートカフェ＋キッチン

○公演準備期間中

レジデンス利用者のための食堂として利用される。セルフキッチンなので利用者が自由にキッチンを使い料理できる。

○公演期間中

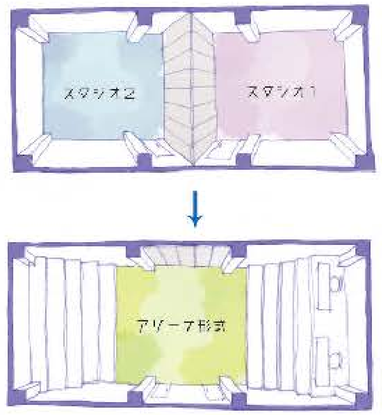
"アートカフェ KITE" 開店／公演などを目的として訪れた客が昼食を取ったり休憩したりする。(KITE= とんび)

カフェ内にも作品が数点展示されているので、コーヒーを飲みながら芸術鑑賞することができる。

○その他

町のお母さんたちのキッチン。日曜は町のお母さんたちが充実したキッチンを使い、朝採れた新鮮な海産物等を使い料理会を開く。

1. スタジオ

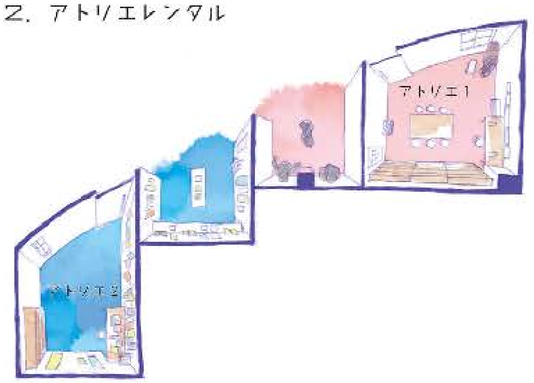


1F スタジオは演劇等の稽古や楽器の演奏、舞台美術等の製作、イベント時のワークショップなど多様な利用が可能。また、公演本番日はリハーサル室や楽屋、さらにはスタジオを劇場として利用することも可能である。

スタジオ 1, 2 については常時は可動式のパーテーションで区切られているが、場合によってはパーテーションを排除し、中心をステージとして客席を両側に組み、アリーナ形式の劇場としても利用することができる。

スタジオ利用者の様々な要望に柔軟に対応した利用ができる。

2. アトリエレンタル



2F アトリエを一定の契約期間、最大5人のアーティストに貸し出す。
アトリエ一つにつき、個人ギャラリーが一つ貸し出され、
自分の作品を自由に展示することができる。

〈ある時期にアトリエをレンタルしたアーティストの例〉

アトリエ 1: 木彫刻家　　アトリエ 4: 水彩画家

アトリエ 2: 絵本作家　　アトリエ 5: 書道家

アトリエ 3: 写真家

〈木彫刻家〉
レンタル期間に制作した作品を出来次第展示する。
答志の人々の姿を作品にするようになり、漁師や
海女さんをモチーフにした荒々しくも優美な
作品を主に制作。

〈絵本作家〉
今まで制作した作品を主に展示、販売する。
答志の子供たち向けの読み聞かせ会を月1回〜2回
スタジオやアートカフェで行う。完成作品は答志保育園に寄付。

〈写真家〉
答志に住む人々の人物写真や風景写真など
答志で行われる日常に密着した写真展を行う。
ピンホールカメラのワークショップなど人々が
気軽に写真に接近できる取り組みを行う。

〈水彩画家〉
期間中は水彩をもって島をめぐり島の人々と交流し、
島の豊かな自然の写真や心温まる日常風景などを描いた水彩画を制作、展示する。
小学生たちに水彩画を教える講師として小学校に招かれることも。

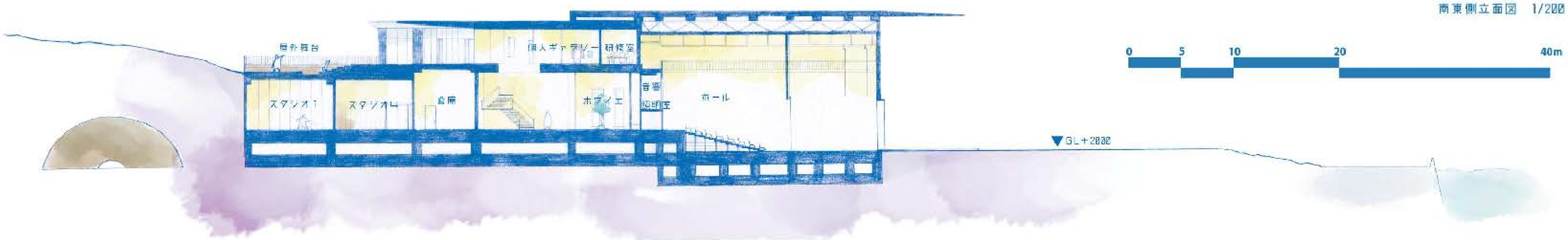
〈書道家〉
島に流れるゆったりした時間と人々との交流から得られた感性を
のびやかに表現する。

4. レジデンス

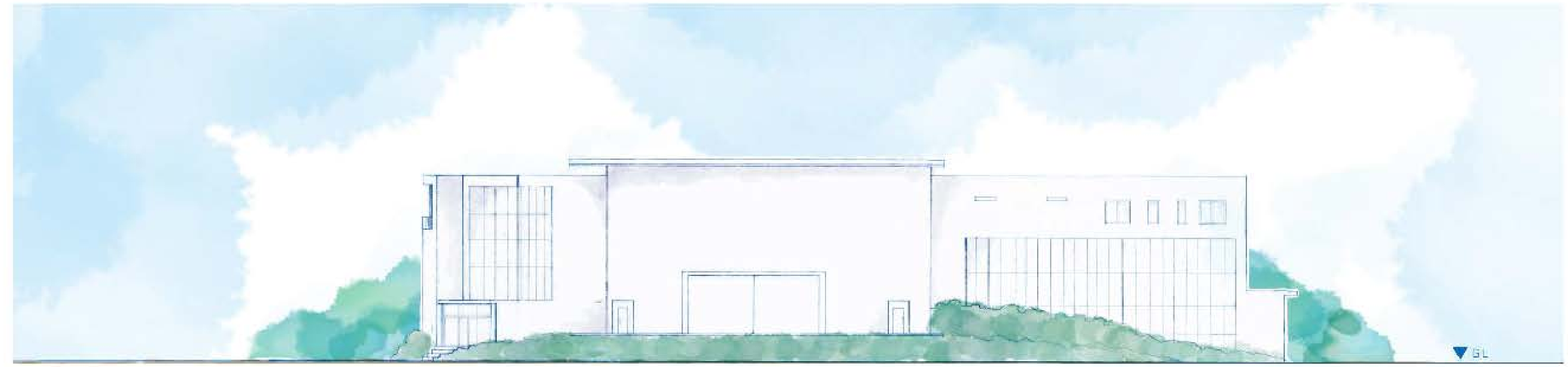
8人部屋ドミトリーが2室、12人部屋ドミトリー1室があり、最大28名の宿泊が可能。
シャワールームが4室、ランドリーコーナーも備え付けられている。島に滞在して芸術制作を行う者が5人以上であれば
誰でも宿泊施設が利用でき、食事に関してはアートカフェ＋キッチンを自由に利用可能である。

AIR 期間については収容人数を越える可能性があるため島の空家なども利用し、より土地になじみやすい体系をつくる。

南東側立面図　1/200



X-X' 断面図　1/200



北東側立面図　1/200

Y-Y' 断面図 1/200

〈プログラム〉

劇場＋練習施設＋展示施設＋宿泊施設

劇場をメインの機能とし、稽古などが可能な
スタジオ、個人貸出のアトリエ、作品展示の為の
ギャラリー、滞在型制作に対応した宿泊施設
などを備える。

〈目指すもの〉

・三重県南部の芸術運動の活性化
・アーティストの発表の機会が増える
・県民が芸術に親しむ機会が増える
・答志の価値再確認の場となる
・観光客が増え、鳥羽市の観光資源の一助となる

〈利用者〉

○島民
‥フリーキッチンを利用し料理会や料理教室を行う
研修室で祭り運営についての会議
展示を鑑賞する、イベントに参加する

○アーティスト
‥アトリエを借りて制作する
長期滞在の場合は宿泊できる
AIR プログラムに参加し、島民と触れ合う
ワークショップ、イベントを開催する

○観光客
‥作品展示、公演を観る。
カフェで島のおいしい食べ物を食べる。

〈イベントプログラム〉

○答志演劇プロジェクト
‥3か月毎に劇団、演劇集団を受け入れ、制作、稽古、公演を
行う。
○伝芸フェス
‥三重県内に受け継がれている伝統芸能のフェスティバル
○ワークショップ
‥アトリエを貸し出すアーティストによるワークショップ

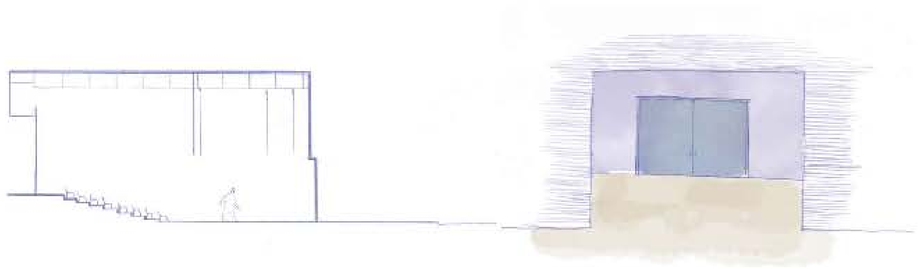
○答志島アーティスト・イン・レジデンス
‥年に1度、答志地区で行われる芸術祭。
国内外のアーティストを受け入れ、島民との交流の中で
劇場及び町中にて制作、展示、公演がおよそ2週間開催される。

・演劇、音楽‥ホール、屋外舞台、スタジオ、港など
・美術‥ギャラリー、アートカフェ、町中各所

〈風景を切り取る〉

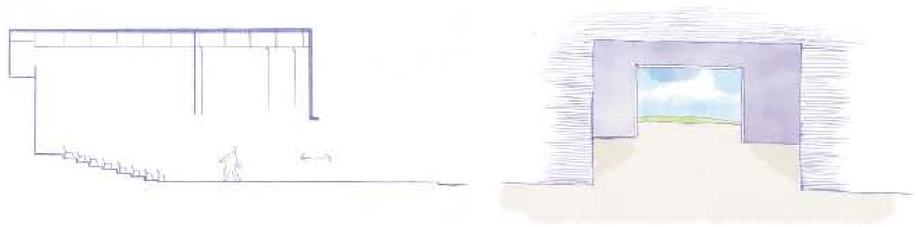
1．舞台背面の扉
舞台背面に扉があり、海を背景にすることができる。
演劇や音楽を通して見える海、扉という額縁によって切り取られた海を眺める

Close



舞台美術を建てこんで
通常の演劇公演・音楽公演
を行える。

Open



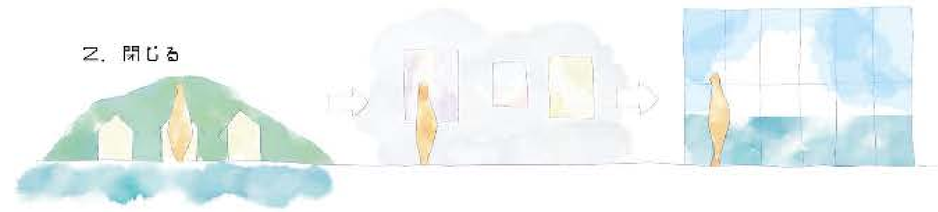
外部空間も舞台の一部として利用可能。
奥行きを活かして公演が行える。
海の借景ができる。
観客は演劇や音楽の世界観を通した
目線で答志の海を見ることができる。

〈設計手法〉

1．切り取る

風景をパノラマではなく敢えて断片的に切り取ってみることで
「絵」「ストーリー」として見えるのでより意識化される

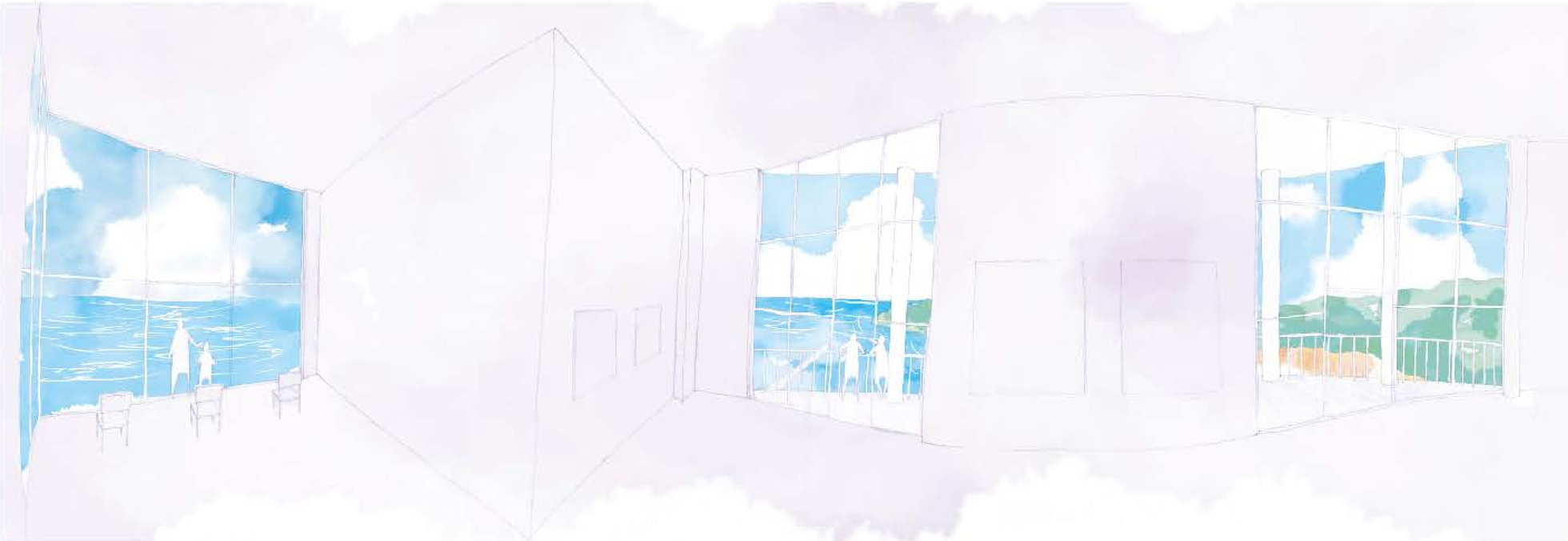
2．閉じる



外界から切り離された空間を経験することで、
まるで違う場所に来たかのような感覚を得られる

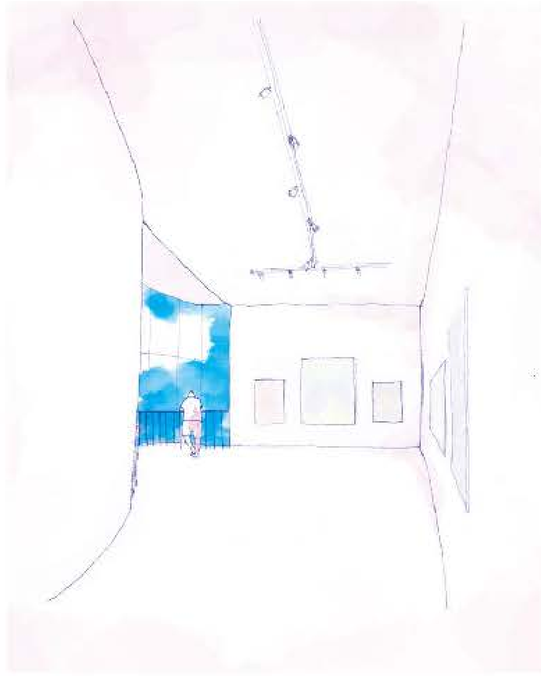
2. 2F アートカフェ＆キッチン

ここでは海だけでなく答志の町も一望することができる。
町 → 港 → 海　という順に目線が移動することで、3者の関係性がよりはっきり
見えてくる。



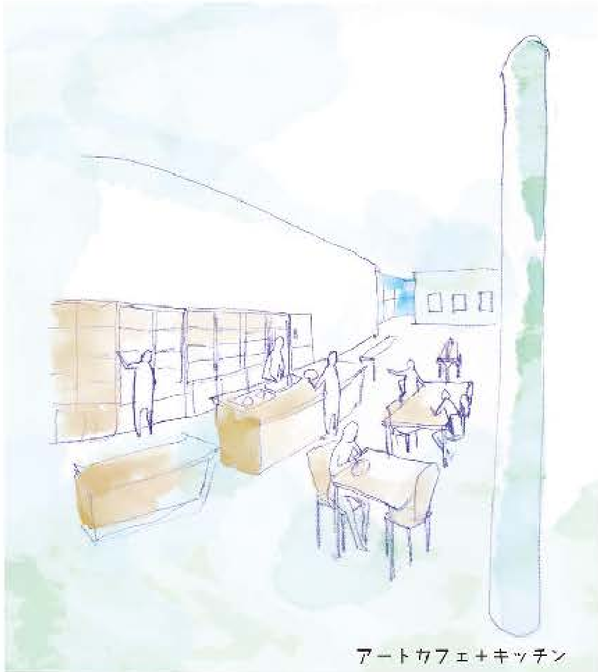
3. 1F ギャラリー最奥部

展示に囲まれた閉塞的な細長い空間を歩いていくと、
緩やかなカーブの先に開けた海の光景が見える。
展示と答志の町、答志の海との関わりに気づく。



4. 屋外舞台

1F の劇場とは真逆の山側を向いている。
山の切り取りと海の切り取りの対比になる。



アートカフェ＋キッチン

1F ギャラリー